

2005 年度 小委員会活動成果報告

(20 年 月 日作成)

小委員会名	都市企画小委員会		主 査 名：鳴海邦碩 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会		委員長名：鳴海邦碩 主 査 名：
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2005 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスクフォース型WGによる研究成果の公開・出版 アーバンデザイン図集の刊行、都市開発のためのインフラ計画の刊行、景観法の活用にむけて自治体支援を目的としたガイドラインの検討・頒布（または刊行） ・都市計画部門研究協議会の企画・運営支援 ・協働のまちづくりにおける環境デザインに関する研究活動を進め、公開研究会などの開催により、研究成果の公開していく <p>2006 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築・都市計画・まちづくりに関わる法制度、ガイドラインに関する研究成果を踏まえ、公開研究会、シンポジウムなどの開催を検討し、小委員会活動を広く社会にアピールする。 ・建築・都市計画に関わるテーマの開発・研究活動の企画 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>無し</p> <p>主査： 鳴海邦碩 (大阪大学)、委員： 瀬戸口剛 (北海道大学)、野澤千絵 (東京大学)、高見沢実 (横浜国立大学)、志村秀明 (芝浦工業大学)、角野幸博 (武庫川女子大学)、中井検裕 (東京工業大学)、有賀 隆 (名古屋大学)、円満隆平 (金沢工業大学)、江川直樹 (関西大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり・建築ガイドラインWG：主に都市計画・建築に関わる研究成果を体系化・総合化して編集し、研究グループの出版支援・刊行 ・参加のまちづくり協働デザインWG：参加型都市計画の理論・方法論に関する情報データベースを構築し、協働型デザイン手法の開発と普及、を目指す ・都市インフラ計画WG：都市開発のためのインフラ計画に関する本の刊行 		
2005 年度予算	645,000 円	<p>ホームページ公開の有無：無し</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s0/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	9 回 (WG 会合 7 回を含む) (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. (書名) 市民と自治体のための景観法の使い方 6 月出版予定 (出版社 りょうせい)
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称) セミクローズドフォーラム： 時代をリードしたまちづくりのその後 参加者数 30 名 (資料名) 集会テーマと同じ
大会研究集会	1. 研究協議会：都市変容の予兆としての阪神・淡路大震災復興 10 年一阪神淡路から次世代の都市計画へのメッセージ 参加者数 78 名 (資料名) 集会テーマと同じ

対外的意見表明・パブリックコメント等	無し
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まちづくり・建築ガイドラインWG：『市民と自治体のための景観法の使い方』を6月出版予定まで作業を進行させた。(目標ほぼ達成) 2. 都市インフラ計画WG：年度内3回の検討会を持ち、刊行企画書に示した2007年3月に刊行予定で準備を進めている。(目標達成) 3. 参加のまちづくり協働デザインWG：全国NGOデータベース情報から「市民提案」型まちづくり計画事例を13事例抽出し、市民提案型まちづくり計画の段階的策定プロセスを分析し、まちづくり理論と方法論のデータベースの枠気味づくりを行った。(目標達成) 4. 「都市変容の予兆としての阪神・淡路大震災復興10年－阪神淡路から次世代の都市計画へのメッセージ」のテーマで大会時に研究協議会を実施した。(目標達成) 5. セミクローズドフォーラム「時代をリードしたまちづくりのその後」を実施し、新たな研究の視点開発を試みた。(目標達成)
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次のステップの出版計画等を立案する必要がある。その一つの手がかりが、新年度の大会で企画している研究協議会<「学際から融合へ」－期待される多分野融合のまちづくり実践教育～建築学からの視座～>である。 2. 建築デザインと都市計画を結びつける研究活動への展開が必要と考える。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。